

2025年3月2日 主日礼拝 降誕節 第10主日 週報番号3453号 (礼拝後：教会定期総会)

説教題：「**皇帝のもの、神のもの**」

聖書箇所：ルカによる福音書20章20 - 26節 (149頁)

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 26 交読詩編：詩編104編24 - 35節 (114頁)

讚美歌：83/288 (恵みにかがやき) /497 (この世のつとめ) /483 (わが主イエスよ、ひたすら) /27

「今週の聖句」〔「デナリオン銀貨を見せなさい。そこには、だれの肖像と銘があるか。」…イエスは言われた。「それならば、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」〕(ルカ伝20：24-25)

「牧師室の窓」 「受洗には程遠きかと牧師言う半世紀前の査問の厳しさ」

「受洗前査問審査の厳しさも楽しき思い出半世紀経(へ)つ」

(1)皆様おはようございます。早いもので今年も3月になりました。3月は何と言っても、ひな祭り、卒業式、新年度への準備の月ですね。朝起きて顔を洗う時に、冬の間には冷たかった水が温かくなっているように感じられます。私の家は一軒家なので水道管が庭の地面を通ります。気温の変化が水道管の水に伝わるのです。学生時代に下宿生活をしました。もう50数年前のことです。以前にもお話ししましたが、下宿代の節約で、下宿先には洗濯機がなく、金盥(かなだら)いに水道の水を入れ自分の手で洗濯をします。水の冷たさに手や指の感覚がなくなります。家賃の高い下宿では洗濯機を共同で使うことができますが、貧乏学生には望むべくもありません。お金の有り無しの違いを洗濯の凍り付くような冷たい水で体験しました。

数日前の新聞(2025.2.27日本経済新聞朝刊)に自動車の値段の記事が書かれていました。カローラと言う大衆車の値段が、国民の年間収入に対してどの位の割合になっているかです。手の届き易さの実態の移り変わりが書かれています。カローラが発売されたのは1966年(昭和41年、今から59年前)では年収の9割であり手が届きにくい値段でした。その後は急速に国民の収入が増え、カローラ4代目の1982年(昭和57年、今から43年前)には年収の3割弱となり、カローラは大衆車の象徴でした。併し、コロナ感染直前の2019年(今から5年前)に発売されたカローラ12代目の値段は年収の6割弱となりました。その原因は約40年間、国民の所得が増えなかったことにあります。

一方、アメリカではカローラは手の届き易い大衆車であり続けていました。日本とアメリカとでは働いて稼ぐ力の価値に、お金の価値に違いがあるのです。日本の国はいま歴史的な曲がり角に立たされています。働く力、お金の意味、お米や食料品の値段、諸外国との外交交渉などなどの曲がり角です。今日の聖書を読み、何をどの様に考えつつ、生きて行くのかに思いを馳せて舞いたいと思います。

(2)きょうの聖書箇所は小見出しに「皇帝への税金」と書かれた著名な箇所です。マタイ伝・マルコ伝福音書にも記載されています。いずれの福音書も「『ぶどう園と農夫』のたとえ」話の後に記載されています。もう一度思い出してみましょう。「『ぶどう園と農夫』のたとえ」とは、神から預かっている「ぶどう園」を自分のものであると主張している人間の姿をたとえています。神から預かっているこの世界を自分たちが支配していると勘違いをしているのです。「神のものは神に返す」ことをイエス様は語っておられます。そして皇帝に代表される、この世とどの様に対応させるのかをも、イエス様は私たちに示されておられるのです。「神のものは神に返す」ことは、お金や税金のみに限りません。環境問題もそうですし、子供の成長も、食糧問題も、各国間の貿易や、いま話題の関税も含まれます。つまり、人間の社会の中で、私たちは神とどの様に対話をしつつ、生きるのかと言えましょう。

(3)きょうの聖書箇所の場合設定を確認いたします。イエス様はエルサレムの町に来られて、十字架の死と復活をされるまでの、最後の1週間の日々を過ごしておられます。神殿の境内に入り、

人々に福音を語られます。併し、このことがユダヤ教の主だった人々の強い反感を生じて行きました。

20節21節には次の様に書かれています。〔(ルカ伝20:20)そこで、機会をねらっていた彼らは、正しい人を装う回し者を遣わし、イエスの言葉じりをとらえ、総督の支配と権力にイエスを渡そうとした。(20:21)回し者らはイエスに尋ねた。「先生、わたしたちは、あなたがおっしゃることも、教えてくださることも正しく、また、えこひいきなしに、真理に基づいて神の道を教えておられることを知っています。」〕

ここには「回し者」と書かれています。ギリシヤ語の意味は「秘かに任命された人、密偵」です。英語ではスパイと訳されています。「正しい人を装う」「言葉じりをとらえ」る、世の中にはこのような人が少なからずいます。オレオレ詐欺や似非(えせ)宗教、悪徳弁護士などなどです。21節を話す人の口と心には天地程の隔たりがあります。

この「口と心の隔たり(ギャップ)」を感じ取ることが大切です。その為には旧約聖書の「箴言(しんげん)」が効果を発揮します。箴言の1章1節～7節には「知恵・分別・熟慮・慎重・聡明」が書かれています。詐欺防止の対策には、箴言のこの5つの言葉を口にすることが極めて効果があると私は思います。日本基督教団も東京教区も、警察庁や警視庁にアピール・アドバイスしては如何でしょうか。気軽に真面目に提案することが大切です。社会に開かれたキリスト教を実践しても宜しいのではと私は思います。

(4)22節を見てみましょう。〔(20:22)ところで、わたしたちが皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか。〕イエス様の時代には、ユダヤの地はヘロデ大王の息子たちが治めていましたが、軍事的にはローマ帝国の支配下にありました。従って、ヘロデ王家が召し上げる税金とローマ帝国に納める税金とがあり、人々は税金の過酷さに苦しんでいました。

古代中国の書物に重税を課す政治は虎(動物の虎)よりも人々を苦しめる「苛政(かせい)は虎よりも猛(たけ)し」と言う言葉があります。先々月1月26日の礼拝ではルカ伝19章に書かれている徴税人ザアカイについて読みました。税金の取り立てを行なうザアカイは正しい信念を持ち、神に恥じない仕事をする人でした。ザアカイの決意を聞いてイエス様は「(ルカ伝19:9)今日(きょう)、救いがこの家を訪れた」と祝福されたのです。

「税金」の「税」という漢字は「のぎへん」ですから「穀物」に関係しています。自分の年間の収穫の中から抜け落ちる穀物、つまり、「取り立てる、納める」と言う意味です。経済活動が活発になると、「貨幣(つまり、お金)」によって人々の生活が営まれます。「お金」とは、物資や労働の数量・品質・価値を測る物差しになったのです。

2千年前のローマ帝国が支配している地域の住民には、税が課せられ、税を納めるには「お金=貨幣」を用いていたのです。貨幣が流通していたと言うことは、その貨幣が人々に信用されていたことに他なりません。と言うことは、法律が整っている、社会制度が安定している、警察力や軍事力による政治的支配が行なわれていることを意味しています。

この22節の質問は、「こじつけの質問、意味のない質問、言葉じりを捉(とら)える」質問であります。「律法に適っているのか、適っていないのか」と言う問い掛けは、ローマ帝国に屈服するのか、反抗するのかを民衆の前ではっきりさせろ、と言う主旨です。いずれの答え方によっても、「律法に適う」と答えれば、「人々から失望されて、救い主ではない」ことを曝(さら)け出してします。一方、「律法に適っていない」と答えれば、ローマ帝国への納税を拒絶する扇動者として訴えることができます。

…併し、ここで要注意です。抑々(そもそも)、この質問をした「回し者」、その背後にいる「ユダヤ教の指導者たち自身」が、ローマ帝国に税金を納めているという事実があるのです。

何という矛盾でしょうか。罫をかけた者自身が罫にかけられていることに気が付いていないのです。23節にそのことが書かれています。〔(20:23)イエスは彼らのたくらみを見抜いて言われた。〕ここには「たくらみ」と書かれているギリシア語の意味は「賢さ、抜け目なさ、悪賢さ」です。この23節の「たくらみを見抜く」と言う言葉は重要です。先程の旧約聖書箴言1章3節4節に〔(箴言1:3~4)…正義と裁きと公平に目覚めるため。未熟な者に熟慮を教え…慎重さを与える〕また、8章11節には〔(箴言8:11)知恵は真珠にまさり、どのような財宝も比べることはできない〕と書かれています。

昨日と本日のニュースの第1見出しはウクライナと米国の両国首脳の間論でした。両国にとっても、世界の平和にとってもマイナスの効果となるでしょう。その昔、江戸の町を守ることを西郷隆盛と勝海舟は話し合いました。更に昔、大坂の町を守るために、加藤清正は幼い豊臣秀頼を補佐して京都に行き徳川家康と対面し、戦争を回避しました。

知識と思慮深さを学ぶことが人々の平和と生活を守るのです。学校教育の基本がここにあります。子供たちが身に付けるべきは「知識と思慮深さ」を両立させることであり、それが人生を支えるのです。

(5)話を続けます。24節25節です。〔(20:24)「デナリオン銀貨を見せなさい。そこには、だれの肖像と銘があるか。」彼らが「皇帝のもので」と言うと、(20:25)イエスは言われた。「それならば、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」〕「デナリオン」とは1日働いた金額です。

「デナリオン銀貨」には時のローマ皇帝の姿が刻印されていました。私がいまここに持っている「本」(『イエス時代の日常生活Ⅱ』ダニエル=ロプス著、波木居済二・波木居純一訳、山本書店発行1968年初版発行、1980年11版)の表紙に当時のデナリオン銀貨の表と裏とが印刷されています。権威の象徴であり、信用の具体化であります。雑学ですが、当時の銀貨は数えるのではなく、天秤で量っていたようです。金属の純度や削られていないことを確認しました。箴言の16章11節12節には〔(箴言16:11)公正な天秤、公正な秤(はかり)は主のもの。袋のおもり石も主の造られたもの。(16:12)…神に従えば王座は堅く立つ。〕と記されています。

この24節25節が、「皇帝」と「神」との区分や対立を示している様に理解することは表面的な理解になります。「貨幣・お金」自体は物であり、物体です。大切なことはそれを使う人の「判断力であり心」です。別の言葉で言えば「正義、神に対する正義」であります。

「皇帝のもの、神のもの」を、別の見方をして考えてみましょう。皆様が中学や高校の数学で学ばれた「集合」と言う考え方で括れば、「すべては神のもの」であり、「その一部に皇帝のもの」が含まれるのです。旧約聖書の創世記にもあのヨブ記にもそのことが記されています。人間には、私たちには、その置かれている状況によっては、不合理に見える感じられることがあります。が、「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返す」その判断力が必要です。

余談ですが、先程歌いました讚美歌497番(1954年版讚美歌313番)「この世のつとめ」は作詞が1930年(昭和5年)、作曲が1931年(昭和6年)でした。因みに、教会員のO・Kさんは1929年(昭和4年)のお生まれです。当時、アメリカでの経済破綻が日本にも大きく影響し、東北の農村では貧困による人身売買が、濱口雄幸首相の東京駅での暗殺未遂事件が、そして、満州事変へと戦争が始まった時代です。作詞の由木康は東京銀座の三井財閥の本拠地に行き、献金を依頼しました。その面談を待つ僅かな時間にこの歌詞を書き、3節の終わりには「小さき御声を聴き分け得る静けき

心与えたまえ」と書いたのです。日本のクリスチャンは困難な時代にあっても、信仰の火を燈し続けてきました。私たちも信仰の恵みに感謝し、信仰の火を燈し続けて参りましょう。

・・・お祈りします。

主なるキリストの神様。春3月を迎えました。困難な中にあっても、主による恵みの日々をお与え下さりありがとうございます。今年は今週の3月5日に「灰の水曜日」迎え受難節・レントの期間に入ります。主イエス・キリストの受難の日々を覚え、私たちの信仰を導いて下さいますようお願いいたします。私たちの国では、沢山の雪で被害を受け、大規模な山林火災で被害を受けています。平安をお与え下さい。

3月11日には東日本大震災から14年になります。被災者のご家族に平安があります様に、被災地の復興が行なわれます様に。ウクライナやガザや戦乱の只中にある人々に平和が実現します様に。私たちが出来ますことを為さしめて下さい。教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

〔新共同訳聖書(ルカ伝20:20)そこで、機会をねらっていた彼らは、正しい人を装う回し者を遣わし、イエスの言葉じりをとらえ、総督の支配と権力にイエスを渡そうとした。(20:21)回し者らはイエスに尋ねた。「先生、わたしたちは、あなたがおっしゃることも、教えてくださることも正しく、また、えこひいきなしに、真理に基づいて神の道を教えておられることを知っています。(20:22)ところで、わたしたちが皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか。』(20:23)イエスは彼らのたくらみを見抜いて言われた。(20:24)「デナリオン銀貨を見せなさい。そこには、だれの肖像と銘があるか。』彼らが「皇帝のものです」と言うと、(20:25)イエスは言われた。「それならば、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。』(20:26)彼らは民衆の前でイエスの言葉じりをとらえることができず、その答えに驚いて黙ってしまった。〕